

第3学年の実践 (国語)

- 1 単元名 物語のしかけを見つけよう
教材名 「ゆうすげ村の小さな旅館」 東京書籍 3年上

2 単元のねらい

○物語を読むことに興味をもち、物語のしかけを見つけながら読もうとする。

【国語への関心・意欲・態度】

○物語のしかけを見つけるために、表現に着目して読み、場面の出来事を押さえ、関連づけて読むことができる。C (1) ウ・エ

【読むこと】

○表現したり理解したりするために、必要な語句を増やすことができる。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

3 読書指導の観点

○読書意欲：本のおもしろさが分かり、自ら読もうとしている。

○集団読書：思考読書の習慣がつく。

4 単元設定の理由

(1) 単元について

本単元の重点指導事項は、学習指導要領におけるC読む(1)ウ「場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述をもとに想像して読むこと」および、エ「目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。」である。

本単元では、物語の「しかけ」を探すことで場面と場面を関連づけて読み、人物像や人物の気持ちの変化を想像しながら読む力をつけることをねらいとしている。物語には、物語を面白くするために、読んだ後で「そうだったのか。」と分かるようなヒントが隠されている場合があり、それを物語の「しかけ」と考える。しかけを見つけるためには、それぞれの場面の出来事を関連づけ、文章中の言葉や表現に注目して読む力が必要とされる。

教材文「ゆうすげ村の小さな旅館」は、『ゆうすげ村の小さな旅館』という本の12編の連作シリーズの第1作にあたるもので、この短編のもともとの題名は「ウサギのダイコン」である。基本的に時間の経過に沿って物語が展開しており、時を表す言葉に着目することで、場面をとらえることができる。また、人物の行動や会話から人物の気持ちを想像することができる教材である。

一次では、「ゆうすげ村の小さな旅館」には、しかけがあることを知り、物語のしかけを見つけるという学習課題を確認する。二次では、「ゆうすげ村の小さな旅館」の内容の大体をとらえ、美月がウサギであると分かる表現や、内容に関わる「しかけ」を見つける。その中で、登場人物の気持ちや気持ちの変化、人物像についても想像しながら読みすすめていく。三次では、『車のいろ

は空のいろ』シリーズの物語を使って、グループで「読書会」を行う。本単元での「読書会」とは、グループで同じ本を読み、それぞれが見つけた物語のしかけをグループで伝え合いながら、物語に登場する人物や人物の気持ちについて話し合う活動である。グループで伝え合うことで、一人では見つけられない物語のしかけや人物像に気づくことができるので、物語を読む楽しさをより味わえるようにする。四次では、しかけのある物語を一人で読んだり、家族で読んだりすることで読書意欲を高めていけるようにする。

(2) 児童について

(略)

(3) 指導にあたって

教材文の学習の流れ

「ゆうすげ村の小さな旅館」の物語のしかけを見つけるときには、3次の読書会と同じ流れで行う。まず、美月の正体がウサギであることを確認する。次に、物語のしかけを見つけていく。見つけたところに線を引いたり、付箋を貼ったりしていくことで、書くことが苦手な児童にとっても、抵抗なく物語のしかけを見つける活動ができると考える。教材文では、場面ごとに物語のしかけと思われるところを探しながら、場面の出来事、登場人物の人物像や気持ち、気持ちの変化について考えていく。しかけ見つけでは、人物の様子が表れている部分だけではなく、物語の内容に関わるしかけにも目を向けさせたい。そして、①正体に気づいたのはいつか、②そのときつぼみさんはどのような様子だったか、③最後はどのような気持ち・様子でお別れをしたのか、という3つのポイントに着目してみんなで話し合う。このような流れで教材文を学習していくことで、物語のしかけを見つけながら読む方法を知り、他の物語も意欲的にしかけを見つけながら読むことができると考える。

三者の協働

本単元では、担任、司書教諭、学校司書が協働した授業を展開する。

本単元の導入の前に、三者で話し合い、単元の流れ、役割分担、身に付けさせたい力等を明確にする。また、司書教諭、学校司書で物語のしかけを見つけやすい作品の選定を行う。

三次の導入時には、司書教諭が本の紹介を行う。『車のいろは空のいろ』シリーズは、お客さんの正体がイメージしやすい動物になっていることが多い。その上、挿絵も多く、『ゆうすげ村の小さな旅館』より字も大きいので読みやすい。児童の実態に合わせた物語を用意することで、児童がより関心をもち、意欲的に学習に取り組むと考える。それぞれの考えを交流していく読書会では、三者で役割を分担し、児童に関わっていく。そうすることで、個々の児童の思いに沿った授業展開ができると考える。

四次では、しかけのある他の物語を司書教諭が紹介し、家族と一緒に読書をすることをすすめ、楽しみながら読書を行い、読書の習慣化へつなげていきたい。

グループでの活動

三次の学習では、3グループに分かれて読書会を行う。初めに一人で物語を読み、しかけを見つ

けて付箋を貼った後、発表し合う。読書力には個人差があるため、グループを編成するときには、児童の実態に合わせたグループ編成をし、支援を行う。

Aチーム…自分で物語を読み進めることができ、物語のしかけも楽しんで見つけることができるグループである。普段から、絵本以外の9類の本を読むことも多い。より表現に着目して物語が読めるように、見つけられないしかけがあったときには必要に応じてヒントを出す。次の物語を楽しんで読んでいけるように、別の物語も紹介する。

Bチーム…物語のしかけを楽しんで見つけようとするグループである。しかし、普段の読書では絵本や図鑑などを読むことが多く、自分から進んで9類の物語を読むことが少ない。そのため、一人で読む前に正体を確認したり、一人で物語のしかけを見つけれられたことを褒め、物語のしかけを見つめる楽しさを感じさせたりすることで、読書への意欲を高めたい。

Cチーム…文章を読んだり、内容をとらえたりすることが苦手なグループである。そのため、長文の物語は興味をもてないと考えられるので、正体を確認した後、指導者が読み聞かせをすることで、抵抗なくしかけ見つけに取り組めるようにする。しかけを見つけれないときには、動物のイメージを尋ねたり、ヒントを出したりして、物語のしかけを見つめる楽しさを感じさせたい。

5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
物語を読むことに興味をもち、物語のしかけを見つけながら読もうとしている。	物語のしかけを見つめるために、表現に着目して読み、場面の出来事を押さえ、関連づけて読んでいる。	表現したり理解したりするために、必要な語句を増やしている。

6 単元の指導計画と評価計画（全10時間）

時間	学習活動	教師の指導・支援 (◆司書教諭・◇学校司書の支援)	評価規準及び 評価方法
一次 1時間	○学習の見通しをもつ。 ・「ゆうすげ村の小さな旅館」を通読し、感想を交流する。 ・学習課題と学習の流れを確かめる。	・おもしろかったところ、驚いたところなど初発の感想を発表させ、物語にしかけがあることを知らせる。 ・単元を通して、物語のしかけを見つめるという学習課題を確認する。	☆「ゆうすげ村の小さな旅館」の初発の感想をもっている。 【関意態】(ノート) ☆表現したり、理解したりするために必要な語句を増やしている。 【言】(ノート)
二次 6時間	○「ゆうすげ村の小さな旅館」の内容の大体をとらえ、しかけを見つめる。 ・時を表す言葉を手がかりに場面を分け、場面ごとに	・場面を分け、物語全体の「場所」と「人物」を確かめる。 ・物語の内容の大体をとらえにくい児童には、それぞれの場面の挿絵を使いながら、どんな場面かイメージ	☆物語のしかけを見つめるために、文章中の語や表現に着目して読んでいる。 【読】 (発言・ライン)

	<p>起きた出来事確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの場面で起きた出来事を読み取り，人物の様子や気持ちを想像しながら読む。 ・美月が「ウサギ」であることが分かる表現や物語のしかけを見つけ発表し合う。 	<p>できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人物の行動に気をつけて，場面ごとにどんな出来事が起きたのかをまとめさせる。 ・美月が「ウサギ」であることが分かる場所や物語のしかけだと思ったところに，線を引く。 ・つぼみさんや美月さんの人物像や気持ちについてせまっていく。 	<p>☆起きた出来事を読み取り，文章中の語や表現に注意してつぼみさんと美月の様子や気持ちを想像しながら読んでいく。【読】（発言・ノート）</p>
<p>三次 2時間 (本時 1/2)</p>	<p>○しかけのある物語の読書会を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ゆうすげ村の小さな旅館」以外のしかけのある物語を知る。 ・読書会のやり方を知る。 ・しかけのある物語を読み，しかけを見つける。 ・各グループで，物語のしかけについて伝え合う。その後，以下の3点 <ol style="list-style-type: none"> ① 正体に気づいたのはいつか。 ② そのときの人物の様子はどんなだったか。 ③ 最後はどんな気持ち・様子でお別れしたか。 <p>について話し合う。</p>	<p>◆しかけのある物語を紹介し，読書会のやり方を知らせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物語を読むことが苦手な児童には，読み聞かせをしながら物語のしかけを見つけていくようにする。 ・伝え合いに集中できるように，話し合いで出てきた意見は，指導者が板書をするようにする。 ・話し合いの流れが分かりやすいように，手順を明示しておく。 ・付箋が貼れない児童には，ヒントを出すようにする。 ・1つの物語が終わったら次の物語を紹介していく。 	<p>☆物語のしかけを見つけながら，本を楽しく読もうとしている。</p> <p>【関意態】 (行動観察・発言)</p>
<p>四次 1時間</p> <p>課外</p>	<p>○しかけのある物語を一人で読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書会で読んだ物語以外のしかけのある物語を知る。 ・物語のしかけを見つけながら，本を読んでいく。 <p>・選んだ物語を持ち帰り，家族で読む。</p>	<p>◆しかけのある他の物語を紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで学習したことをいかして本を読んでいくようにする。 <p>◆◇児童の実態にあった本を薦める。</p> <p>・親子で物語のしかけを見つけることで，楽しく読書に取り組めるようにする。</p>	<p>☆しかけのある物語のおもしろさが分かり，自ら読もうとしている。【関意態】（発言・行動観察）</p>

7 本時の学習

(1) ねらい

- 読書会をすることで、物語のしかけを見つけながら本を楽しく読もうとする。【関意態】

(2) 展開

学習活動	主な発問と予想される児童の反応	教師の支援と評価(☆)
1 本時のめあてを確認する。	物語のしかけを見つけながら、楽しく読もう。	
2 物語のしかけを見つける読書会のやり方について知る。	<p>○「ゆうすげ村の小さな旅館」以外に、どんな物語があるのか紹介してもらおう。また、読書会のやり方についても教えてもらおう。</p> <p><読書会のやり方></p> <ul style="list-style-type: none"> i 物語を読む（一人で） ii お客さんは誰か。（グループで） iii 物語のしかけを探す。付箋を貼る。（一人で） iv 見つけたしかけについて伝え合う。（グループで） v ①②③について話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>①正体に気づいたのはいつか。</p> <p>②そのときの人物の様子はどんなだったか。</p> <p>③最後はどんな気持ち・様子でお別れしたか。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・しかけのある物語と読書会について、司書教諭から紹介をする。 ・新しい物語に興味をもてるように、視覚的に工夫して提示をする。 ・それぞれのグループの実態に合った物語を紹介する。
3 3グループに分かれて読書会をする。	<p>○物語のしかけを見つけながら、本を読もう。</p> <p>○お客さんの正体を確認してから、どんな物語のしかけを見つけたか、グループで伝え合おう。</p> <p>○3つの視点にそって話し合う。</p> <p>A：「たぬき先生はじょうずです」 正体…たぬき</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こげ茶いろのふかふかぼうしをかぶり ・たぬきしかいいん など <p>⇒終わったら「星のタクシー」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・担任，司書教諭，学校司書で1つずつグループを分担し，読書会で出た意見を記録する。また，各グループの実態に合った支援を行う。 <p>A：見つけていないしかけに着目するようにヒントを出し，じっくり読んでみようとする意欲を高める。（担任，学校司書）</p>

<p>4 学習の振り返りをする。</p> <p>5 次時の学習を知る。</p>	<p>B：「春のお客さん」 正体…たぬき</p> <ul style="list-style-type: none"> ・だって足がちゃんと四つあるもんね。 ・ふわっとこげ茶のものが など <p>⇒終わったら「やさしい天気雨」</p> <p>C：「小さなお客さん」 正体…きつね</p> <ul style="list-style-type: none"> ・でも、この足，毛がはえてないね。 ・ほそいみじかい金いろの毛 など <p>⇒終わったら「白いぼうし」</p> <p>○今日の学習で考えたこと，感じたことなどを伝え合おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の考えを聞いて，自分が見つけられなかったしかけも見つけることができちゃった。 ・主人公の松井さんのやさしさが伝わってきました。 ・もっと他の物語のしかけも見つけてみたいです。 ・楽しく本を読むことができました。 <p>○次時は，他の物語も読んでみよう。</p>	<p>B：初めに正体を確認しておくことで，しかけを見つけやすくする。(担任)</p> <p>C：読み聞かせをしたり，ヒントを出したりして，自分でしかけを見つける楽しさを感じられるようにする。(司書教諭)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書会の様子が分かる板書を残し，他の物語も読んでみたいという意欲を高めるようにする。 <p>☆物語のしかけを見つけながら，本を楽しく読もうとしている。【関意態】(行動観察・発言)</p>
---	--	--

(3) 本時の評価

A 十分に満足できると判断される児童の具体例	B おおむな満足できると判断される児童の具体例	→支援を必要とする児童への指導の手立て
<ul style="list-style-type: none"> ・集中して物語を読み，しかけのある物語を読む楽しさを感じている。 ・自分が見つけたしかけを意欲的に伝えようとしている。 ・人物像や気持ちの変化をとらえながら物語を読んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・しかけのある物語を読む楽しさを感じている。 ・自分が見つけたしかけを友だちに伝えようとしている。 ・人物像や人物の気持ちの変化を想像しながら読もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集中して本に向かうことができない。自力では読みすすめられない。 <p>⇒読み聞かせをする。</p>

(4) 研究の視点

- ・グループごとにしかけのある物語を用意し，物語のしかけを見つけながら読みすすめる読書会を行ったことは，物語を読む楽しさを感じ，次の読書活動への意欲づけとなったか。
- ・担任，司書教諭，学校司書のそれぞれの支援は，ねらいを達成する上で有効であったか。

【授業の実際】

① 本時まで

教材文でのしかけ見つけの学習

三次の読書会に向けて、教材文の物語のしかけを見つけないときには、読書会と同じ流れで行った。

★単元の導入

単元の導入では、「ゆうすげ村の小さな旅館」を通読し、感想を交流した。「美月さんがうさぎでびっくりした。」「あんな名前なのに、よくつぼみさんにばれなかったなあ。」「うさぎは耳がいいから、つぼみさんのためいきが聞こえたんだと思う。」「うさぎがつくったからウサギだいこんなのかな?。」などと、美月さんの正体がうさぎであることや、文章や絵などをヒントに、なぜそう思ったかについてたくさん感想が聞かれ、物語のしかけに気づきながら読みすすめている児童もたくさんいた。それらの感想をもとに、美月はうさぎであること、また、物語にはそのことが分かる「物語のしかけ」があることを伝え、みんなで物語のしかけを見つけないながら読みすすめるという学習課題を確認した。

★中心人物の人物像にせまる

本単元は、昨年度の3年生の実践の追試の形をとっている。昨年度の実践の、

- ① しかけ見つけはとても魅力的な活動であったが、教材文の読み取りに時間をかけすぎたあまり、集中が続かなかった。
- ② 物語のしかけ見つけに気持ちが向きすぎ、それぞれの中心人物である、つぼみさんや松井さんの人となりにはあまり目が向かなかった、本を読む楽しさにつなげるためには、主人公に寄り添って読んでいくことが必要だった。

という課題を改善するために、教材文の読み取りの段階から、しかけ見つけと並行して、登場人物の気持ちや気持ちの変化について考えながら行うようにした。

初発の感想に、「美月さんが来てくれたおかげで、つぼみさんも仕事がやりやすくなったし、仕事の人もうれしそうだった。」「つぼみさんがやさしかったから、美月さんを引き止めずに帰らせてあげてよかった。」「つぼみさんは、美月さんがうさぎだと分かったのに、知らんぷりをしていてやさしいと思った。大変なときに手伝いに来てくれて、つぼみさんはうれしかったんだと思う。」など、登場人物の人物像に注目している児童も多くいた。教材文の読み取りの際に、それらを丁寧に取り上げながら行った。教科書のしかけのあるところに線を引いたり、付箋を貼ったりする活動を個人で行ったが、どの児童もとても意欲的に取り組んだ。場面ごとに読み取りを進めていったが、場面を何度も行き来しながら、前の場面との関連を見つけたり、なぜそう考えたかの根拠を叙述から探し出したりする活動は、とても楽しく感じているようだった。登場人物の人物像を意識しながら学習を進めたことで、単に言葉によるしかけ見つけに終わることなく、より物語の楽しさ・おもしろさを感じているように見えた。

二次の終末場面では、三次の読書会で行う流れ【①正体に気づいたのはいつか、②そのときの中心人物の様子、③最後はどのような気持ちでお別れしたのか】に沿って読み取りのまとめを行った。物語をじっくりと読むことが苦手な児童もいるが、しかけ見つけを通して楽しく、また、くり返し何度も教材文を読む中で、物語のおもしろさを感じることができたように思う。

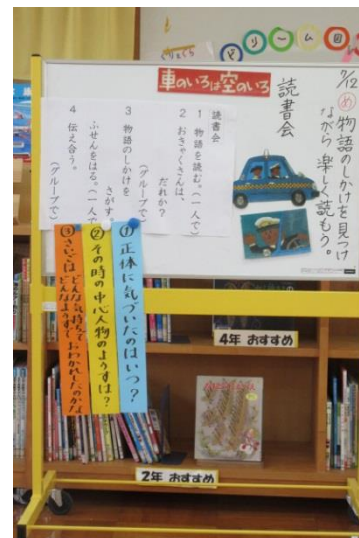
② 本時

しかけのある物語の読書会～グループでの活動～

本時では、グループに分かれて読書会をする中で、物語のしかけを見つけながら読み進め、登場人物の人物像や人柄にも触れることで、物語の楽しさを味わってほしいと考えた。

★読書会の流れについて

教材文では読書会の流れに沿って読み取りを進めてきたが、本時はグループに分かれて初めて行う時間であるので、意欲的に活動に迎えるように導入を大切にしたい。学習のめあてについて担任が提示した後、司書教諭から、読書会のやり方、本時で扱う『車の色は空のいろ』シリーズの登場人物をペープサートで紹介したことで、児童の興味を高めることができた。また、グループごとの読書会の流れやめあてについて再度確認をし、提示したことで、自然に活動に入ることができた。



★グループでの読書会について

児童は、読書会をすることをとても楽しみにしていた。児童の読書に対する実態から3つのグループに分けて行った。グループごとに、教師の支援も工夫した。

〈A グループ〉

「たぬき先生はじょうずです」(正体：たぬき)

[授業より抜粋]

T1：正体に気づいたのはどこかな？ そのときの松井さんはどんな様子だった？

C1：P93。

C2：そうそう。「ありゃあ」と言ったから、つぼみさんみたいに、親みたいに起こした。

C3：おれもそう思う。

C4：最後は、えがおがうかんだってことは、あー、いいことしたな、と思ったと思う。

T2：どうやって松井さん、さよならしたの？

C5：人間が動物の場所をうばっているから、ごめんね、って、お返しみたいな気持ちで、いいことしたなって。

C6：たぬき先生のえがおがうかんだから。



しかけをどんどん見つけ、自分たちで話し合いを進めることができた。ページをまたいでの関連性にも目を向けていたことから、教材文で学習したことをよくつなげて考え、発言することができていた。

〈B グループ〉

「春のお客さん」（正体：たぬき）

本を手にとることは多いが、普段の読書では絵本や図鑑を好んで読むことが多く、自分で物語を読みすすめるとなると個人差がやや大きいグループとなった。司会をした児童は、教材文の読み取りの時からしかけ見つけをとても楽しんでおり、今回の読書会で司会をすることもとても楽しみにしていた。物語を読み終わるのも早く、自分なりに読書会の進め方をイメージしながら友達を読み終わるのを待っているようだった。読書会の流れに沿って、みんなで正体を確認すると、見つけたしかけを伝え合った。友達の見つけたしかけと同じところに付箋が貼られているととても嬉しそうだった。また、自分が見つけたしかけを説明する際に、ページをあちこちめくりながら自分の考えを話す姿が見られた。



〈C グループ〉

「小さなお客さん」（正体：きつね）

文章を読んだり、内容を捉えたりすることが苦手な児童のグループである。その中でも読むことに関しては大きな差がある。まずは、一人で読むことにしたが、10分ほどたったところでまだ読み終えていない児童もいたため、司書教諭が読み聞かせを行った。自力で読むことが苦手な児童については、このように読み聞かせを行うことが効果的である。

〔授業より抜粋〕

（読み聞かせが終わったところで）

C1：「ぼくたち生まれて初めて。」のどこ。

C2：わたしもはった。

C3：きつねはタクシーには乗ったことがないから。

C4：「この足、毛が生えてないね。」のどこ。

足は毛が生えているけど、タイヤを足だと思ってて、毛が生えてなくておかしいと思ってる。

C5：「細いみじかい金色の毛。」きつねだけん、金色の毛だし、きつねが車にのって気がついた。

C6：そうそう。

C7：「こりゃ、きつねの毛らしいぞ。」のどこ。

松井さんは子どもたちを人間だと思っていたからわからなかったけど、前のページのところで松井さんが気がついて、「こりゃ、きつねの毛らしいぞ。」って言ったと思う。



児童の話し合いでは、分からなくなった時には関連のある所を声に出してもう一度読んで考え直すことができた。自分で読む、次に読んでもらう、分からなくなったところを再度読んでもらうことに

より、物語を少しずつ理解できていった。一読してしかけを読み取るには、児童の実態に応じた支援が必要であることが改めてよく分かった。

③ 本時以降

しかけのある物語を一人で読む→お家の人と読書会をする

本時では読むことができなかった物語を使って、お家の人と読書会をすることにした。

「星のタクシー」

【H児】しかけがたくさん見つかった。お客さんの正体は星の子で、星祭りの時に気づいたと思う。どこにも星の子って書いていないけど、そうわかるようなしかけがたくさんあって、読むのが楽しかった。ほかのしかけのある本も読んでみたい。

【H児母】本を読むのに「しかけ」とか考えたことはありませんでしたが、確かに意識せずに自然と頭の中でそういう形で読んでいたな、と改めて気づきました。ミステリーやサスペンスの謎解きのように一言一句に集中して読むことで楽しさにつながりますね。

「春のお客さん」

【Y児】前にTさんが、しかけはさいごらへんにあるって言っていたのがせいかいでした。春のお客さんは5人のためきで、一人ずつしっぽが出てきたから、松井さんはおもしろくなったと思います。しかけを見つけながら読むのは楽しいです。

【Y児母】最後に子どもがためきだったという大どんでん返しがあって楽しく読めました。運転手さんのやさしい性格にほっこりしながら読めました。

どの家庭も親子での楽しい時間をもってもらうことができた。この活動をきっかけに、しかけのある物語を手にとりて読んだり、家に持ち帰って家の人としかけ見つけを楽しんだり、他のシリーズの本を借りて読んだりする姿が見られた。

【成果と課題】

成果

- ① 読書が好きな児童は多いが、集中力を維持しながら読むためにも、絵がたくさんある本がよい、すらすら読めなくて話が分からなくなってしまう、という理由などから、9類の本へとなかなか向かない児童もいる。そうした児童に、しかけを見つけながら読むことでお話の楽しさを味わうことができること、短編で読むことに対する負担が少ないこと、読書会で友だちと一緒に見つけたことを伝え合い、おもしろさを共有できることなど、読書会の形で学習を行ったことで、文字・物語に対する抵抗を少しでも取り除くことができた。
- ② 読書会では、児童の実態に応じたグループ分け、実態に応じた教師の支援があり、長い文章の物語でも、全員が静かにどっぷりと物語にひたる時間をもつことができた。
- ③ 教材文の読み取りから三次の読書会をイメージし、同じ流れで読み取りを行ってきたことが読書会につながった。特に、登場人物の人物像や気持ちの変化について、ていねいに読み取りを進めてきたことが、三次で出会った物語でも生かされた。登場人物に寄り添うことで、より一層物語を楽しむことができたと思う。

課題

- ① グループ活動について、共通の目的で話し合い・伝え合いをしているが、教師が入るとどうしても対教師となってしまうところがある。Aグループは、教師が離れてから、司会の児童を中心に話を進めていた。伝えたい、聞いてほしいという気持ちがうまく交流できるように、今回のような読書会の形を発展させていけるとよい。対話的な学びの場を児童の中でもてるように、自分たちで話し合う、進める、深めるなど、話し合い活動の力を育てていけるよう、パターン化も視野に入れて学年の発達段階に応じて指導していきたい。
- ② 読書は好きだが、自分だけではどうしても読めないという児童に対して、今回の学習は有効であったが、その後の普段の読書の様子を見てみるとまだまだ改善されているとは言い難い。日常的に様々な本を手に取り、楽しいと思える本に出会えるような支援を継続していくことが必要である。